

## 保証書

保証期間内に取扱説明書等の注意書きにしたがって正常な使用状態で使用して故障した場合には、お買い上げの販売店に本書をご提示の上、修理をご依頼下さい。

形名	エアーコンプレッサー BPC-8K		※お買い上げ日	保証期間
			平成 年 月 日	1年
※お客様	ご住所	〒		
	ご芳名			
	電話	( )		
※販売店	住所 店名	☎ ( )		

※印欄に記入のない場合は無効となりますから必ずご確認ください。

1. 保証期間内でも次のような場合には有料修理となります。

- ①使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
- ②お買い上げ後の落下、引っ越し、輸送等による故障または損傷。
- ③火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障または損傷。
- ④車両、船舶にとう載して使用された場合に生じた故障または損傷。
- ⑤本書のご提示がない場合。
- ⑥本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合あるいは字句を書き換えられた場合。

2. ご転居の場合は事前にお買い上げの販売店にご相談ください。

3. 贈答品等で本書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼に出来ない場合には株式会社新興製作所までご相談下さい。

4. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保存してください。

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。

●この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または株式会社新興製作所にお問い合わせください。

株式会社  
SHINKO **新興製作所** 東京都千代田区神田東松下町11番地  
郵便番号101 電話 東京03(3252)8861(代)

# エアーコンプレッサー AIR COMPRESSOR BPC-8K 取扱説明書



このたびはエアーコンプレッサーをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用に際しては必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになったあとは、必ず保存してください。

## ■電動工具ご使用についてのご注意

- 使用電源は必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。100V用のものを間違えて、200V電源に接続して運転しますと、モーターの回転が異常に高速となり、機体が破壊するおそれがあり危険です。
- お使いになる前には、必ずコードや電源プラグを点検してください。コードやプラグを傷んだまま使いますと、やけど・感電・火災などの原因となります。
- 感電防止のため機体の内部には絶対に水を入れないでください。又、使用后水洗はしないでください。
- 工具や付属品は、その能力をこえた過酷な作業をさせないでください。無理な作業は製品の損傷をまねくばかりでなく、危険ですのでさけてください。
- 作業はきちんとした服装でしてください。ネクタイをつけたり、袖口を開いたままで作業しますと、回転物に巻き込まれる恐れがあり、危険です。
- 作業中は保護メガネをご使用ください。目の保護のため、保護メガネが必要です。またホコリが多く出る場合は、マスクもつけてください。
- スパナやネジ回しなどの工具類は運転前に必ず本体から取りはずしてください。取りはずしを忘れますと起動時に思わぬ方向に飛び、事故のもとになり危険です。
- ご使用後は、必ず電源プラグを電源から抜いてください。掃除、調整、点検、修理などの場合も必ずさし込みプラグを電源から抜いて行ってください。

## ■電気容量について

■本機の電圧は100V、消費電流は約11Aです。

上記以下の場合は正常な回転をしません。

■回転しないときは、下記の事項をご確認下さい。

- ブレーカーからの配線がいくつかのコンセントに分かれているときは、ブレーカーに近いコンセントに差し込んで下さい。
- コンセントから延長コードを使用するときは2.0mm'以上の電線を使用して下さい。コードを長くしますと、電気容量が降下しますので短かくしてご使用下さい(15m以内)。
- いくつかの電動工具を同時に使用しますと、電気容量が不足することがあります。テストのときは本機のみでテストして下さい。

■上記ご確認の上、回転しないときは、コンセントの電圧が100V、電流が11A以上になっているかご確認下さい。

ご確認の上、回転しないときは、お手数ですが、販売店又は当社にご連絡下さいますようお願い申し上げます。

## ■コンプレッサーの構造について

- このコンプレッサーは、ピストンタイプで、ピストンがシリンダー内を上下することにより圧縮空気がえられます。
- ピストンが下りるときに吸入弁が開き、吐出弁が閉鎖します。ピストンが上るときに空気を圧縮、吐出弁を通じ、更にチェックバルブを通して圧縮空気がエアータンクに送られます。
- 圧縮空気が、エアータンクに貯蔵されて一定の圧力に達するまでは使用できません。
- 吸込み口のエアフィルターは、常に清潔に保持して下さい。汚れがひどいと空気吸込み量が減少し、能率が低下します。

## ■設置について

- 設置場所は、空気のきれいな平らな堅い地面を選んで設置して下さい。
- 直射日光のあたるところや、雨・湿気の多いところはさけて下さい。
- 風通しをよくするため、扉・壁面から30~45cm位離して設置して下さい。
- ファン付で空気冷却式の構造になっていますが、きれいな冷たい空気を使用しますと、使用時間が長くなります。
- コンプレッサーの上下、周囲には物を置かないで下さい。

## ■特長

- 吐出空気量調整器を工具の手前(ホースの先端とご使用する工具の中間)にセットして作業しますと、広範囲の作業が可。(注)工具に空気吐出調整器がついている場合は不要です。
- 軽量でコンパクトに設計してありますので、作業に合わせて作業場に持運びができます。
- 移動する時は握手を持って少し傾斜をつけますと、簡単に移動させることができます。
- 安全弁が取付けてありますので、安心してご使用いただけます。
- モーターには温度上昇保護装置が付いていますので安全です。
- モーターは強力タイプです。広範囲の作業に威力を発揮します。

## ■用途

- 吐出空気量調整器をセットして作業をしますと、広範囲の作業ができます。
- 連続釘打ち(75~100mm位まで)
- エアータッカー
- スプレーガン塗装
- 空気入れ
- 汚れおとし、(機械、自動車、農機具等)

## ■仕様

型式	BPC-8K
電圧	100V
周波数	50/60HZ
消費電力	780/720W
消費電流	11/10A
回転数	1,420/1,720RPM
最高圧力	8kg/cm <sup>2</sup>
定格圧力	7kg/cm <sup>2</sup>
再起動圧力	5kg/cm <sup>2</sup>
吐出空気量	52ℓ/min
空気タンク容量	10ℓ
本機の寸法	430W×320D×650H
重量	25.5kg
カブラの寸法	1/4"

## ■出荷時の本機と組立について

●輸送中の破損防止のため、エアフィルターケース①を本体から抜いて、袋に入れてあります。ご使用前に、本機の穴についているプラスチックのキャップを抜いて、エアフィルターを必ずセットして下さい。(図1参照)

●オイル注入口のキャップには、通気穴がついています。輸送中に本機を横積みしますと、オイルがもれるおそれがあります。

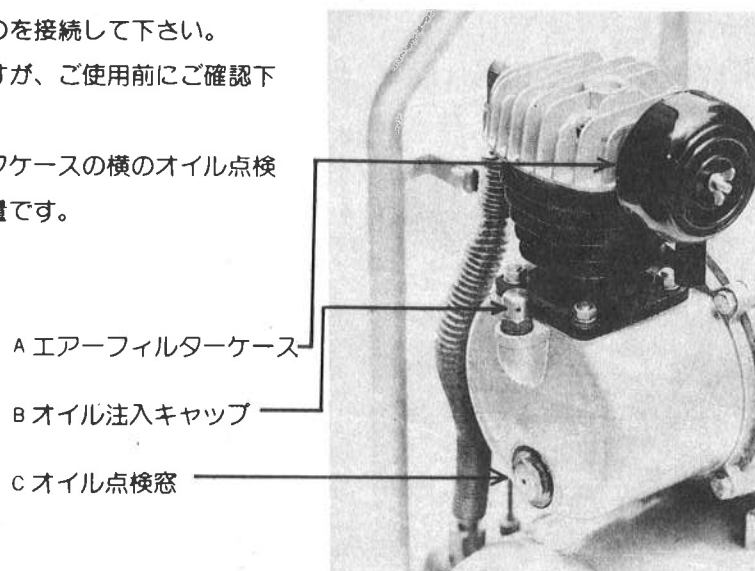
輸送用に穴のないキャップがついています。使用前に袋の中に入っている通気穴のあるキャップBと交換して下さい。(図1参照)

●エアの取出し口には、エアコック1/4"にカブラ1/4"が接続してあります。

エアホースは1/4"のものを接続して下さい。

●オイルは注入してありますが、ご使用前にご確認下さい。

オイルの適量は、クランクケースの横のオイル点検窓のセンターの●印が適量です。



A エアフィルターケース

B オイル注入キャップ

C オイル点検窓

図1

## ■使用前のご注意と点検、補修について

### ●電気について

①電源コード、プラグに損傷がないか点検して下さい。万一損傷がありましたら新しいものと交換して下さい。

②電源は、電圧100Vに接続して下さい。

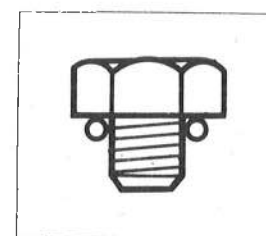
③ご使用前にアースを接地して下さい。

④雨の中、湿度が極端に高いところ、爆発物のある危険なところはさけて下さい。

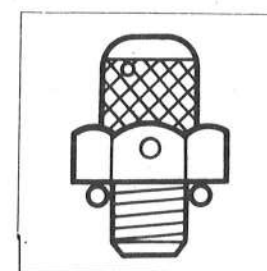
### ●梱包をといた時のお願い。

①エアフィルターは抜いてありますので、必ず取り付けして下さい。

②オイル注入口のキャップを空気穴のあるものと交換して下さい。



輸送用キャップには  
空気穴がありません



使用時用のキャップ  
には空気穴がついて  
ます。

### ●オイル、圧力スイッチ、安全弁について

①クランクケースにオイルは注入してありますが、ご使用前に点検して下さい。オイル点検窓のセンターの●印が適量です。オイルはSAE 20又は30が適しています。

②圧力スイッチは7~7.2kg/cm<sup>2</sup>に調整してあります。

(注) 7.5kg/cm<sup>2</sup>以上は危険ですので上げないで下さい。

③安全弁は8kg/cm<sup>2</sup>に調整してあります。

(注) 8kg/cm<sup>2</sup>以上は危険ですので上げないで下さい。

### ●エアフィルター、ホース、モーターの温度上昇保護装置について

①フィルターを時々点検し、汚れている時は洗剤で洗って乾燥させてからご使用下さい。長期間使用したものは新しいものと交換して下さい。

②本機の空気穴にはカブラ1/4"がついていますので、エアホースは1/4"のホースを接続して下さい。(注) 接続部のネジ、ボルトにエアもれがある時は、ネジ部に空気もれ防止剤(シールの液、バンド等)をつけて接続して下さい。

③モーターには温度上昇保護装置がついています。モーターの温度が万一上昇(130℃以上)した時に作動します。この時はスイッチを切り、15分位経過(モーター温度が下がる)後にスイッチを入れて下さい。

●その他、本機のネジ締め、接地場所、衛生、等に注意して安全にご使用下さい。

●使用後はタンクの下側のネジを抜いて、タンクの中のドレンを抜いて下さい。

## ■コンプレッサーのオイルについて

### ●オイルの点検について

ご使用前にオイルを点検して下さい。(注)運転中にオイルの交換、注入はしないで下さい。

### ●オイルの表示と適量について

①オイルの点検は、オイル点検窓Cで確認して下さい。(図1参照)

②オイルの適量は点検窓のセンターの●印です。(図1参照)

### ●オイルの注入について

オイルの注入は、オイル注入キャップBを抜いて、注入して下さい。オイルはSAE20又は30が適しています。(図1参照)

### ●オイル抜きについて

オイルを抜くときは、オイル点検窓Cを抜いてオイルを抜いて下さい。(図1参照)

(注) オイル抜き後は、正確にキャップを締めつけて下さい。

●通常、オイルの交換は250時間位の運転又は、6ヵ月位の使用時にオイル点検の上、交換して下さい。

## ■圧カスイッチの調整について

### ●エアータンクの圧が高くなると破裂の

恐れがありますので、最初に圧カス

witchが作動し、次に安全弁が作動するよう

に設計してあります。

### ●圧カスイッチの調整

①圧カスイッチDのカバーを取り除くと

下図のように⊖ネジと⊕ネジがついてい

ます。(図2参照)

D 圧カスイッチ  
E カブラ  
G ON, OFFのレバー  
(この場合は作動)  
H 安全弁

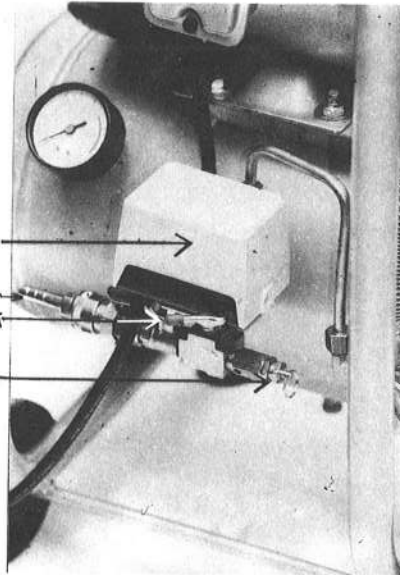


図2

→ ⊖ 圧力の最高を調整するネジ

→ ⊕ 圧力の最低と最高を同時  
に調整するネジ

圧カスイッチの上面

②圧力の最高は7~7.2kg/cm<sup>2</sup>で、最低(再起動)は5kg/cm<sup>2</sup>になるように調整してあります。

③⊖ネジを右に回すと圧力が上昇し、左に回すと下がります。

④⊕ネジを右に回すと最高の圧力と最低の圧力が同時に上がり、左に回すと同時に下がります。

(最低の圧力とは5kg/cm<sup>2</sup>まで圧力が下ると、モーターが回転して圧力を上げる限界値です。)

(注) 通常はこのネジの調整は不要です。

## ■圧カスイッチのON-OFF(作動、停止)についてご説明

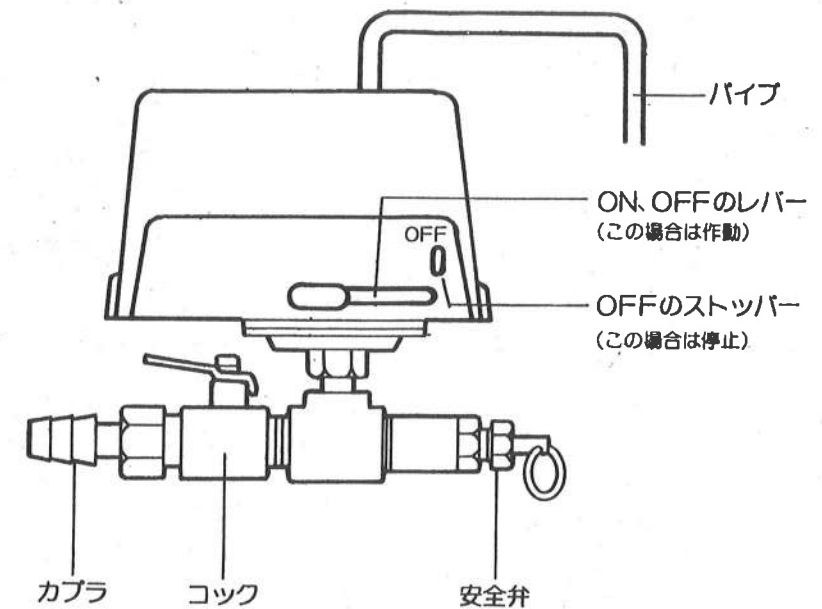
●圧カスイッチにON、OFFのレバーがついています。

●このレバーが水平(横)になっているときは作動します。

●レバーをOFFのストッパー(■)のところまで移動しめすと停止します。

**注** 出荷時にはレバーは水平(ON)になっています。電源を入れる時は安全のため、一度OFF(■)にして下さい。そして水平(ON)にして下さい。

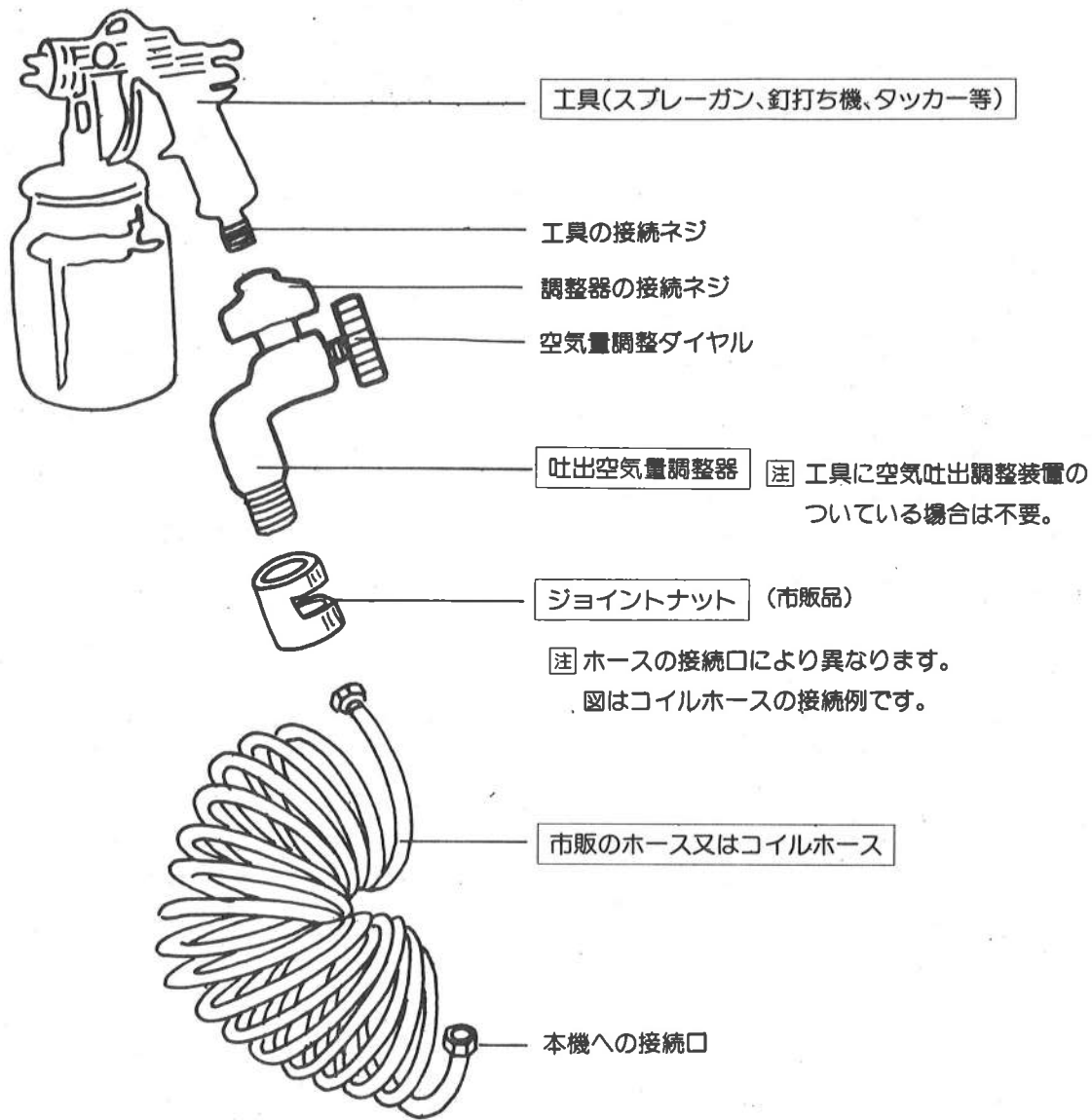
## ■レバーの説明図



## ■吐出空気量調整器の接続方法と使用方法

●下記の図のように吐出空気量調整器を接続して下さい。

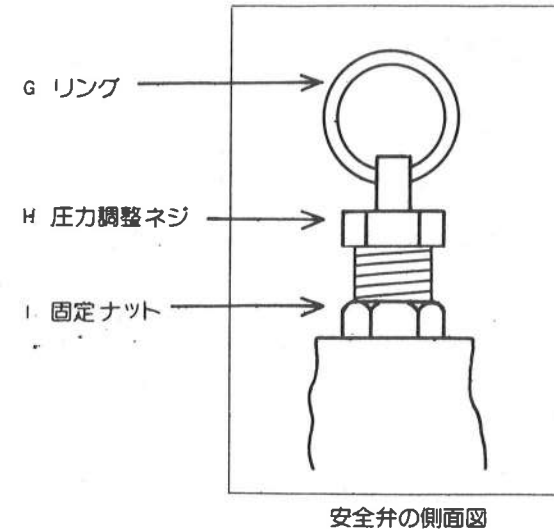
(注)市販の接続金具、ホースの接続部は製品により異なる部分がありますので、本機に合ったものを使用して下さい。



### ●ご使用方法

- ①吐出空気量調整器のダイヤルを右に回して、エアーを止めて下さい。
- ②次に空気調整ダイヤルを左に回しながら、エアーを少しづつ出し、吐出必要量を調整して下さい。

## ■安全弁の調整について



- ①安全弁のリングGを引くと、エアーが吹き出し圧力が下がります。  
(注) 時々、安全弁をふかして正確に作動するか確認して下さい。
- ②固定ナットIを左に回しますと、調整ボルトHがゆるみます。
- ③圧力調整ボルトHを右に回すと圧力が強くなり、左に回すと圧力が下ります。  
調整後は固定ナットIを締めて下さい。  
(注) 最高圧力は8kg/cmです。これを超えると危険です。

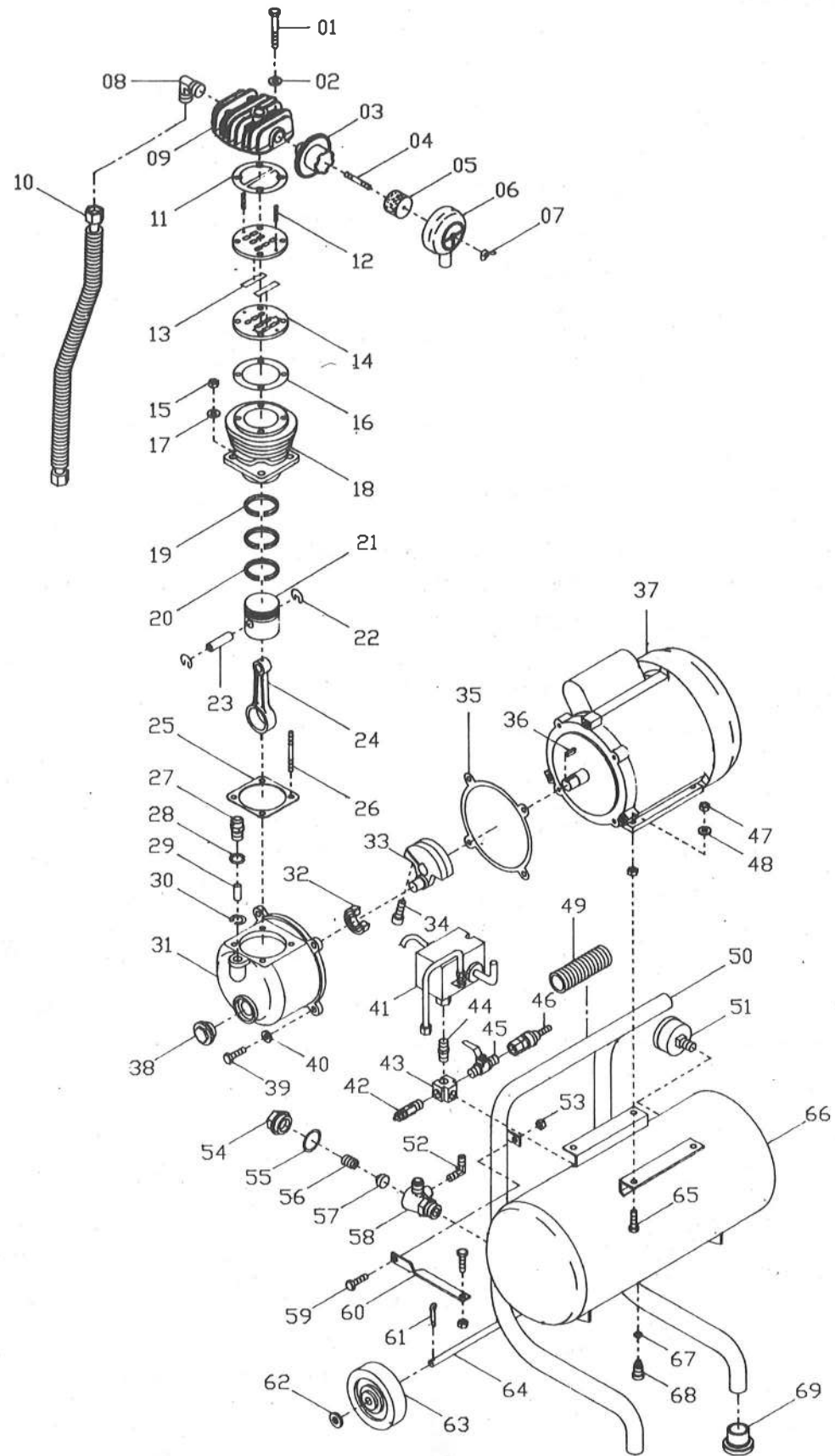
(注) 圧力スイッチ、安全弁の調整は圧力計を見ながら調整して下さい。

(注) 圧力の調整ミスによる本機の破損、事故、その他操作ミスによる本機の破損、事故については、メーカーとしての保証は致しかねます。

## ■故障のときのチェックと修理方法

故障	原因	処理方法
圧縮機が回らない	①電源が入っていない。 ②ヒューズが溶継。 ③モーターのプロテクターが作動。  ④電圧降下。 ⑤モーターがオーバーヒート。 ⑥ブレーカーが開いている。  ⑦圧力スイッチ、安全弁の故障。	①電源を入れる。 ②ヒューズを交換する。 ③スイッチを切り、15分位経過後、スイッチを入れる。 ④電圧をチェックする。 ⑤モーターの交換をする。 ⑥本機並に電源コードの絶縁を点検の上、リセットする。 ⑦点検の上、新しいものに交換。
圧力が上がらない	①安全弁から空気がもれている。  ②管の接続ネジがゆるんでいる。  ③フィルターが汚れている。	①安全弁のノブを引いてテストをする。悪いときは、新しいものに交換する。 ②空気もれ防止剤をつけて、ネジを締める。 ③フィルターの清掃。汚れがひどい時は交換。
エアーに油が含んでいる	①粘度の高いオイルを使用している。 ②クランクケース内のオイルが多い。 ③圧力が高すぎる。 ④ピストンリングの磨耗。	①オイルを非溶剤性SAE 20又は、30に交換する。 ②クランク内のオイルを、点検窓の●印まで抜いて下さい。 ③圧力を7.2kg/cm以下にする。 ④新しいものに交換する。

■部品明細図



■部品明細

No	部 品 名	数量	No	部 品 名	数量
1	六角ボルト	4	36	キー	1
2	スプリングワッシャー	4	37	モーター	1
3	エアフィルター座	1	38	オイル点検窓	1
4	植込ボルト	1	39	六角ボルト	4
5	フィルター	1	40	スプリングワッシャー	4
6	フィルターカバー	1	41	圧力スイッチ	1
7	蝶ナット	1	42	安全弁	1
8	吐出口エルボ	1	43	コックシート	1
9	シリンダーヘッド	1	44	接続棒	1
10	吐出管	1	45	コック	1
11	シリンダーヘッドパッキン	1	46	快速ジョイント	1
12	スプリングピン	2	47	ナット	4
13	弁シム	2	48	スプリングワッシャー	4
14	弁シート	2	49	ハンドルゴムカバー	1
15	ナット	4	50	パイプフレーム	1
16	弁シートパッキン	1	51	圧力計	1
17	ワッシャー	4	52	エルボ	1
18	シリンダー	1	53	ナット	1
19	圧カリング	2	54	六角プラグ	1
20	ワイパリング	1	55	パッキン	1
21	ピストン	1	56	バネ	1
22	ピストンピン止め輪	2	57	ブロック	1
23	ピストンピン	1	58	弁ブロック本体	1
24	連接棒(コンロッド)	1	59	六角ボルト	1
25	シリンダーパッキン	1	60	補強プレート	1
26	植込ボルト	4	61	割りピン	2
27	オイル注入キャップ	1	62	ワッシャー	2
28	Oリング	1	63	タンクホイール	2
29	フィルター	1	64	丸棒	1
30	止め輪	1	65	六角ボルト	4
31	ケース	1	66	エアータンク	1
32	クランクピン軸受	1	67	Oリング	1
33	クランク	1	68	ドレンコック	1
34	六角穴付きボルト	1	69	脚ゴムパッド	2
35	ケースパッキン	1			